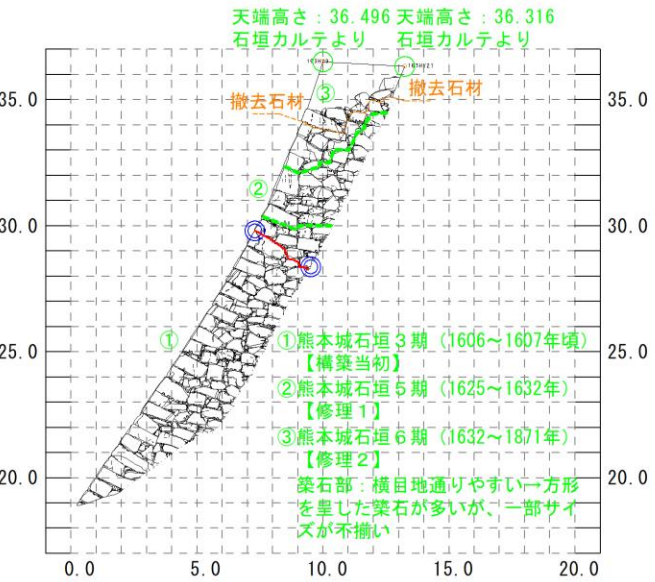
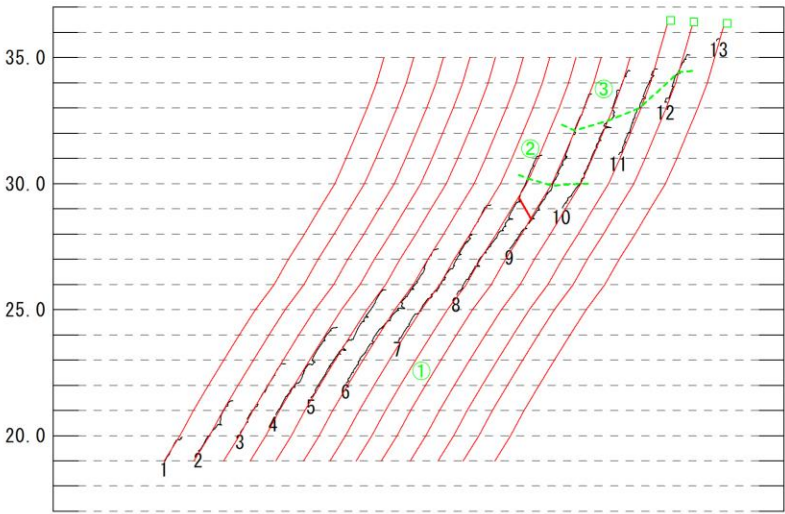


立面図

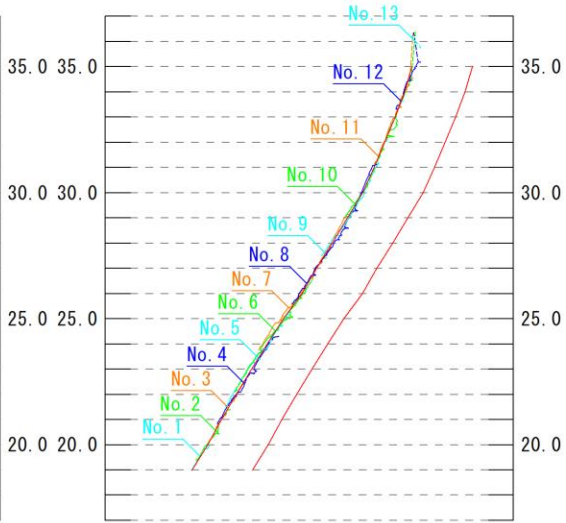


写真①：被災前状況（2010年5月）[出典：北野博司委員]

縦断面図



復旧勾配図



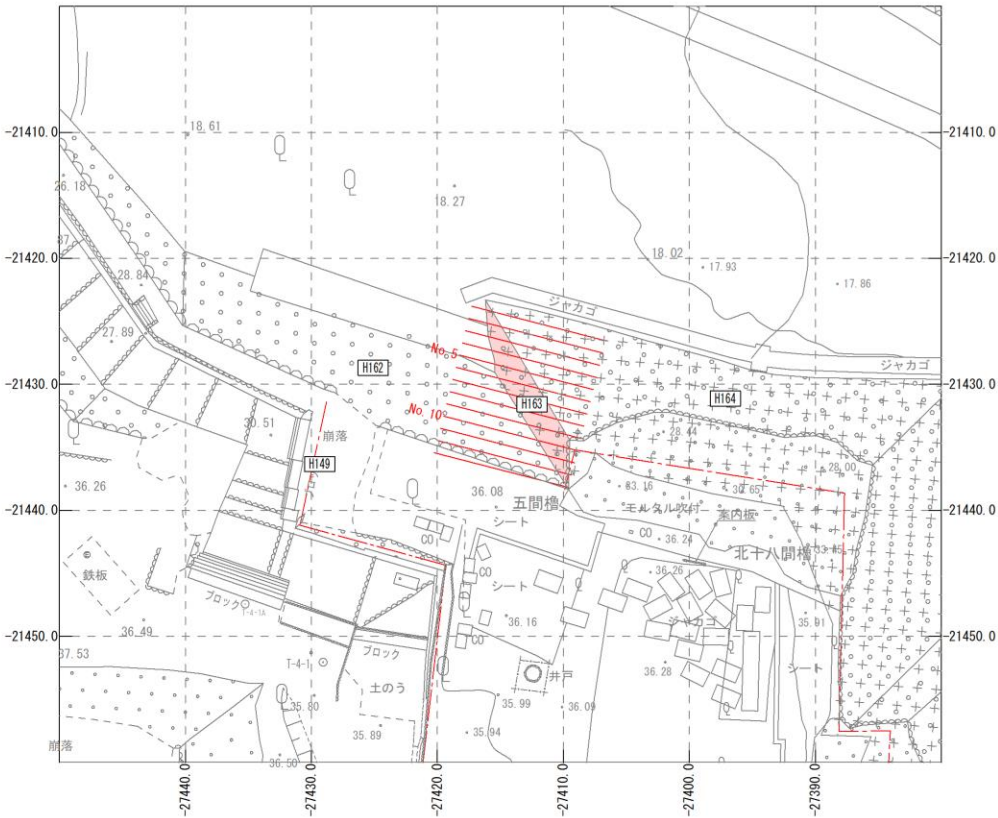
【解体修理範囲の設定手順】

- ① 基準勾配を縦断面図に重ねる。（解体なし）
- ② H162、H164の解体範囲に合わせて隅角部の解体位置を定める。（青二重丸）
- ③ 解体位置を基準に立面図上に解体範囲を図示する。
※勾配は安全衛生規則第357条に基づいた安全勾配を満足している。
- ④ 立面図上の解体範囲を縦断面図上に投影する。

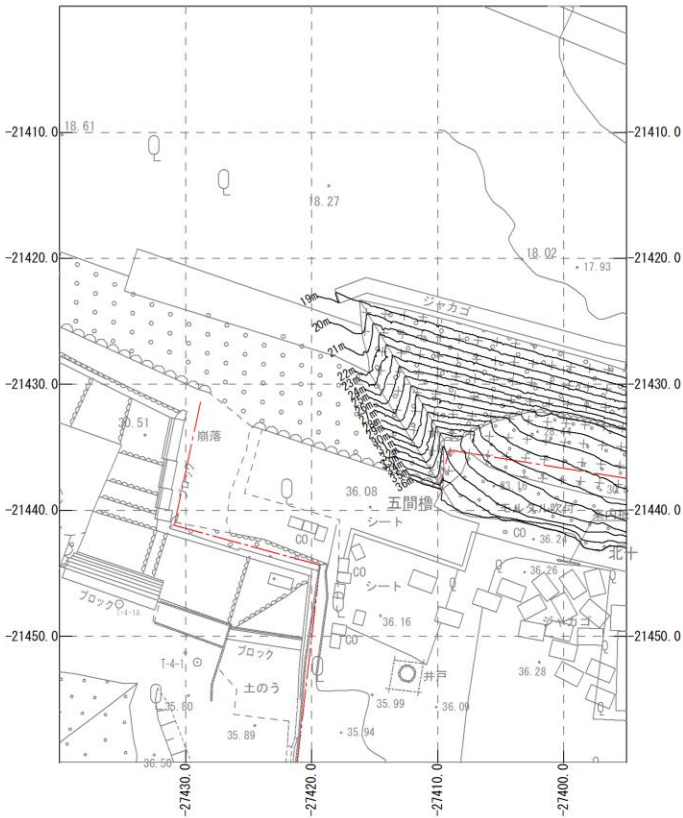
【復旧勾配の設定手順】

- ① 標高19～34：No. 1～13（全断面）を合成する。
- ② 被災前の天端石と建物土台の位置関係（写真①）を参照し、天端位置まですりつけた縦断面線を復旧勾配と設定する。

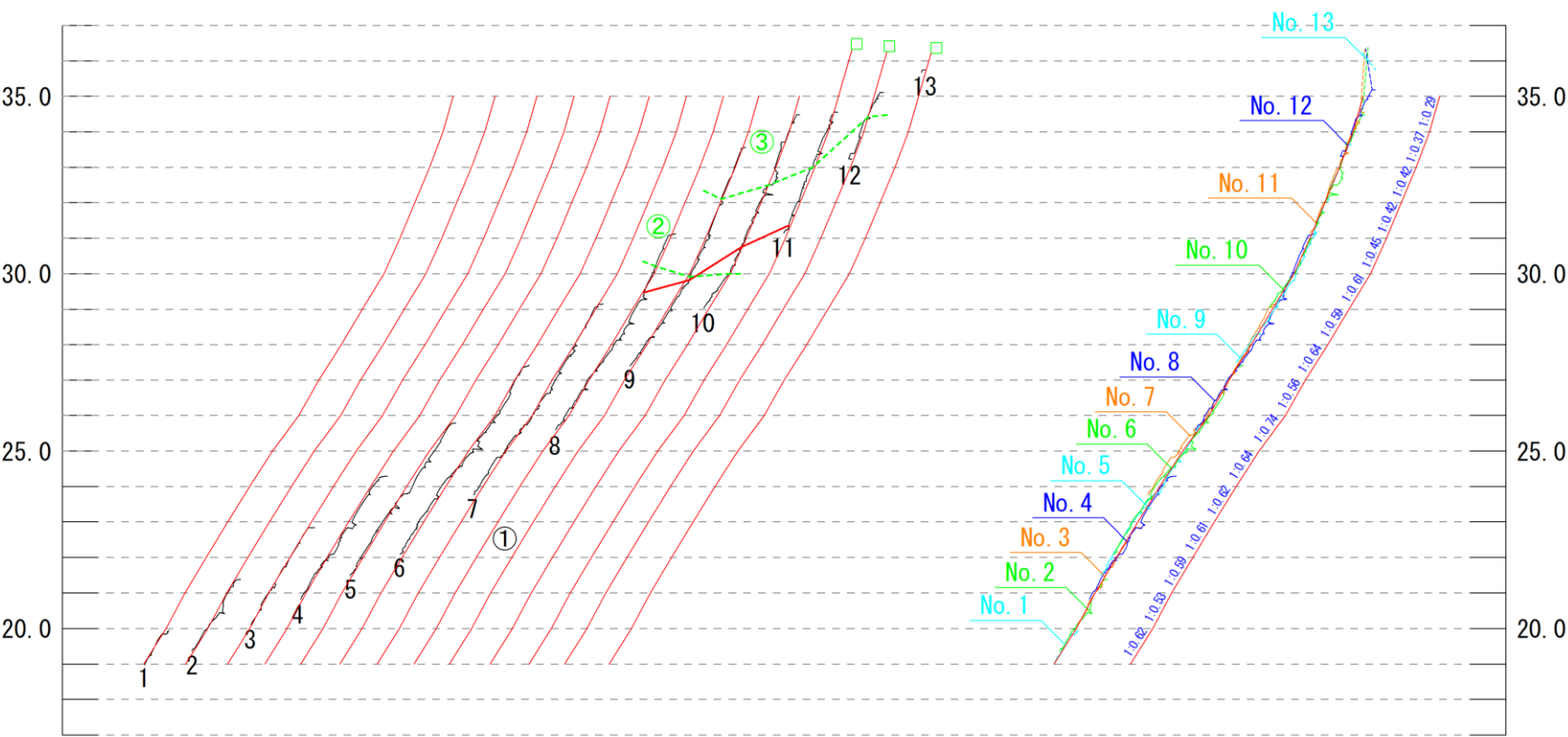
平面図



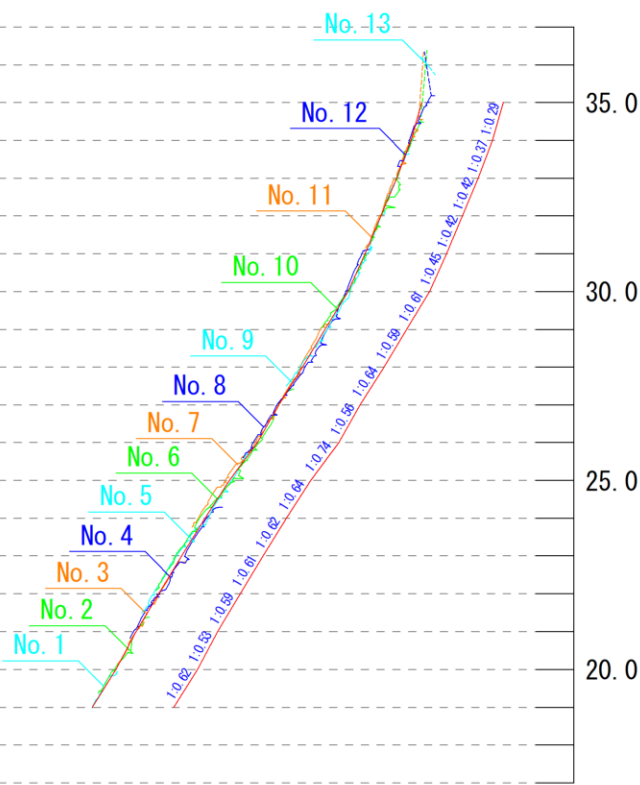
横断面図



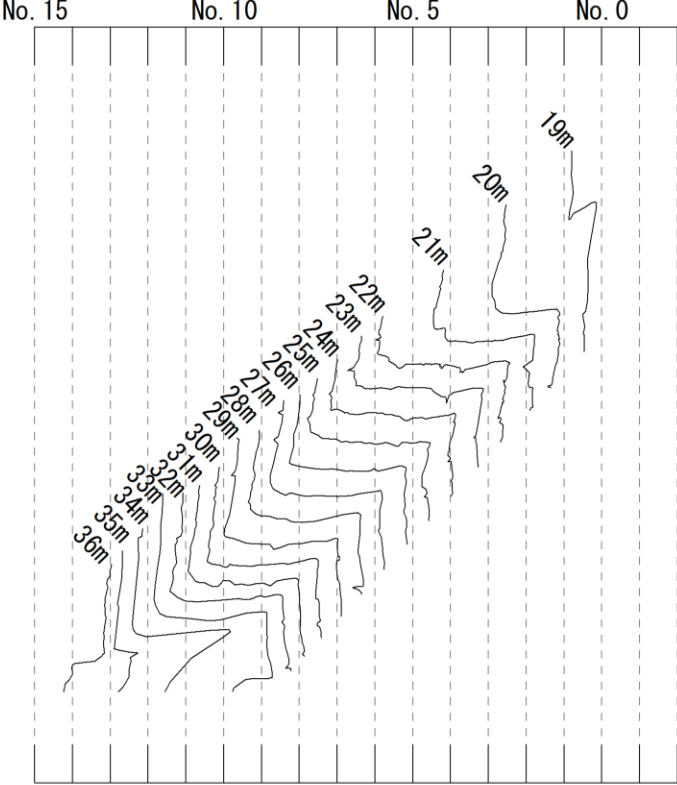
縦断面図（拡大）

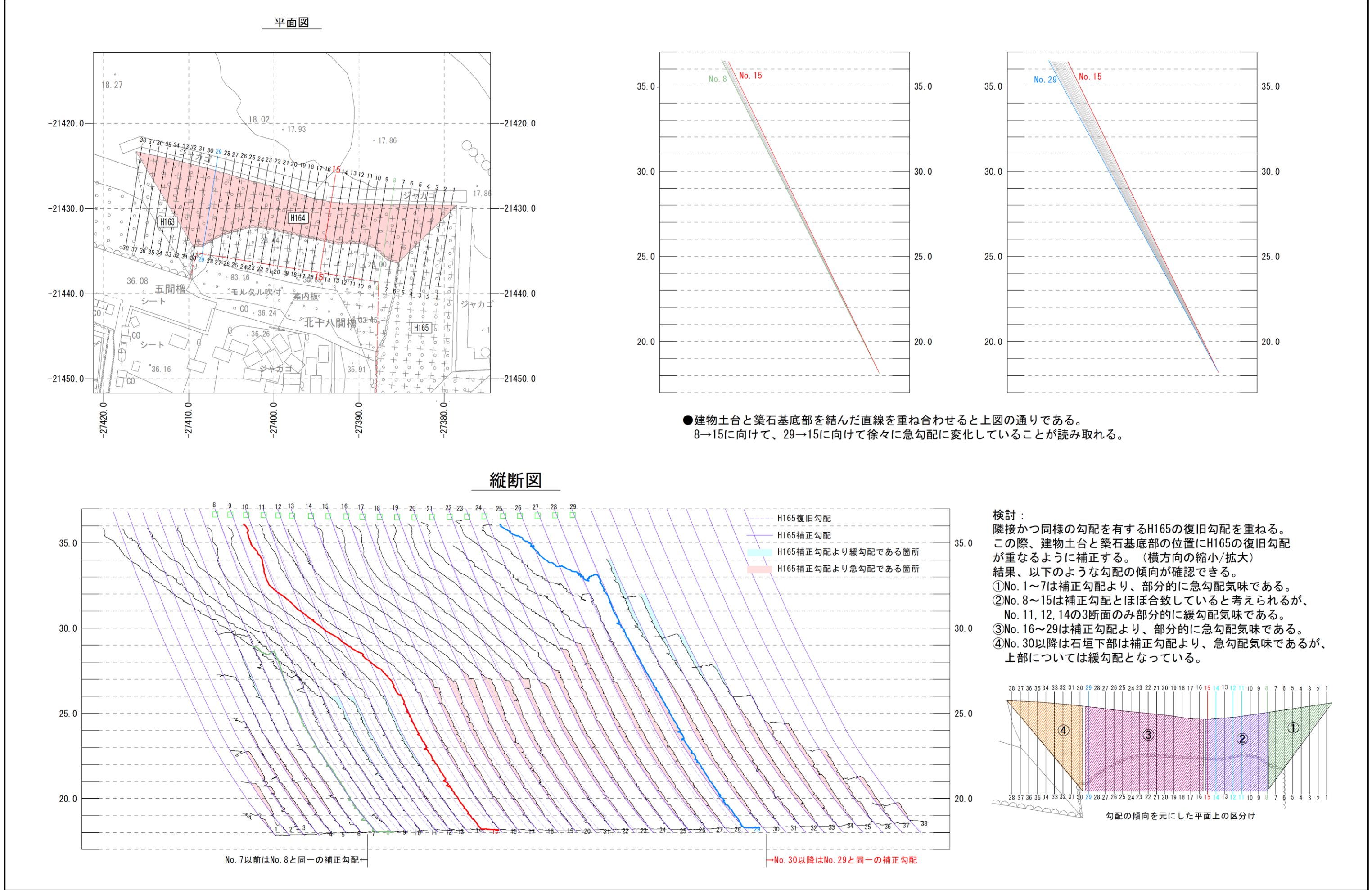


復旧勾配図（拡大）



横断面図（拡大）





復旧勾配の設定：石垣の勾配の傾向を元に、以下のエリアに分け、それぞれに復旧勾配を設ける。

- 復旧勾配①
(No. 1～7)

: H165側と接続する隅角部である。
残存石垣高が最大であるNo. 5, 6を基準勾配として重ね、復旧勾配として設定した。
- 復旧勾配②
(No. 8～15 (16))
(②-1を除)

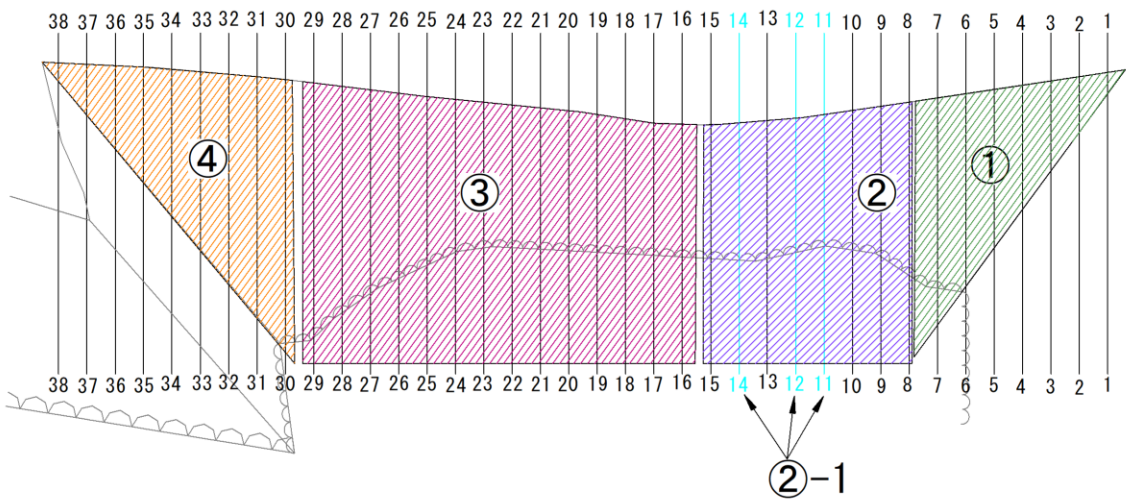
: No. 15を中心に急勾配となる。
H165復旧勾配を復旧勾配として設定し、No. 15を中心に最も急勾配となるよう補正を行った。
(H165補正勾配)※前頁参照
- 復旧勾配②-1
(No. 11, 12, 14)

: 周辺の勾配と比較し、部分的に緩勾配となっている。
標高24以下についてはNo. 11, 12, 14の残存石垣を重ね、基準勾配として復旧勾配を設け、
標高24以上についてはH165復旧勾配を接続し、天端が合うように補正したものを復旧勾配として設定した。
- 復旧勾配③
(No. 16～29)

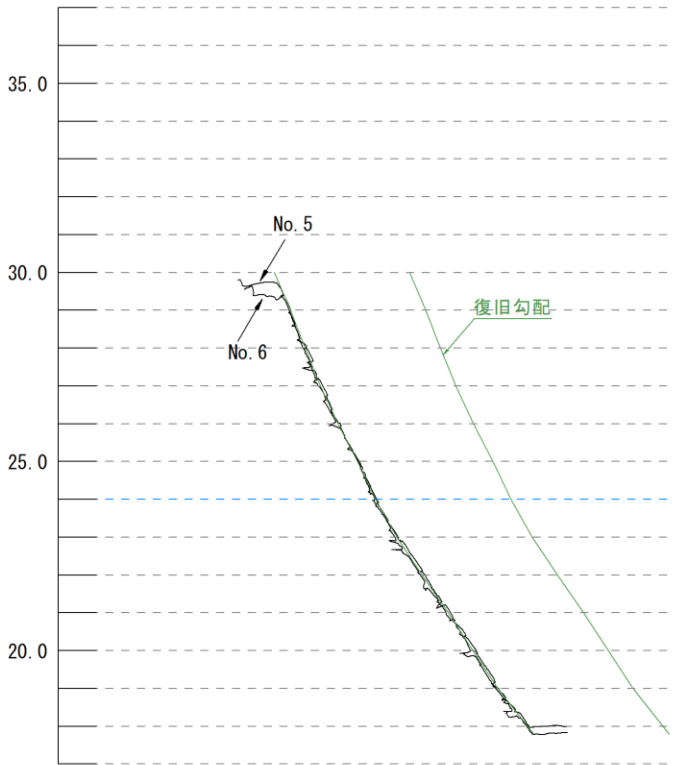
: No. 15を中心に急勾配となる。
残存石垣高が最大であるNo. 29とH165復旧勾配(補正勾配)が交わった箇所で合成したものを復旧勾配として
設定し、No. 15を中心に最も急勾配となるよう補正を行った。
- 復旧勾配④
(No. 30～38)

: H163側と接続する隅角部である。
残存石垣高が最大であるNo. 30, 31を基準勾配として重ね、復旧勾配として設定した。

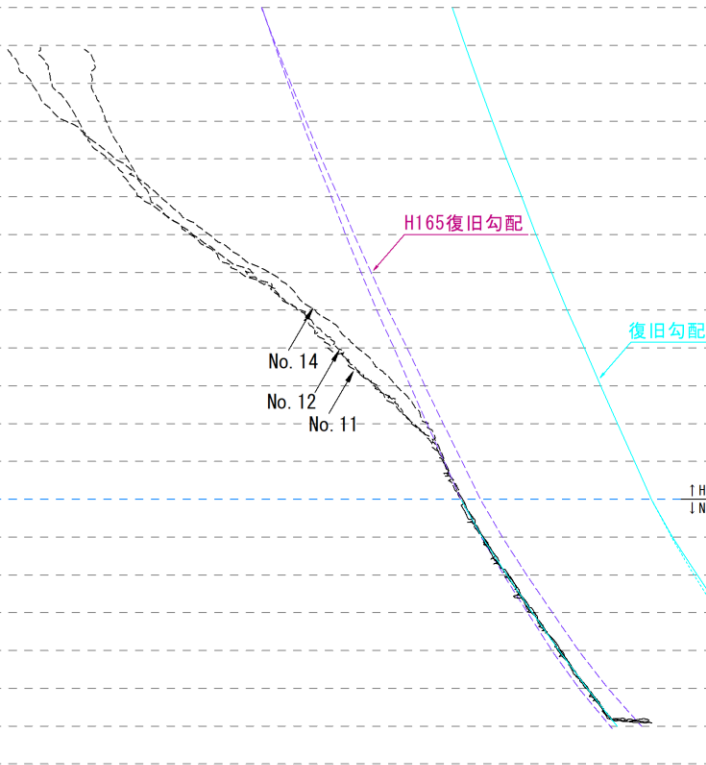
平面上の復旧勾配の区分け



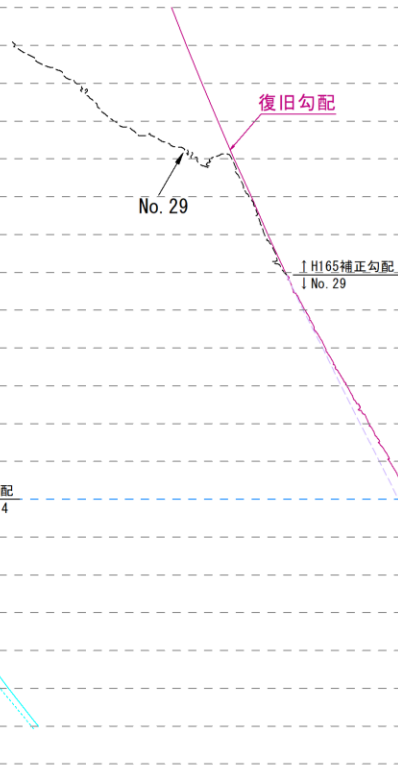
復旧勾配図
(復旧勾配: ①No. 1～7)



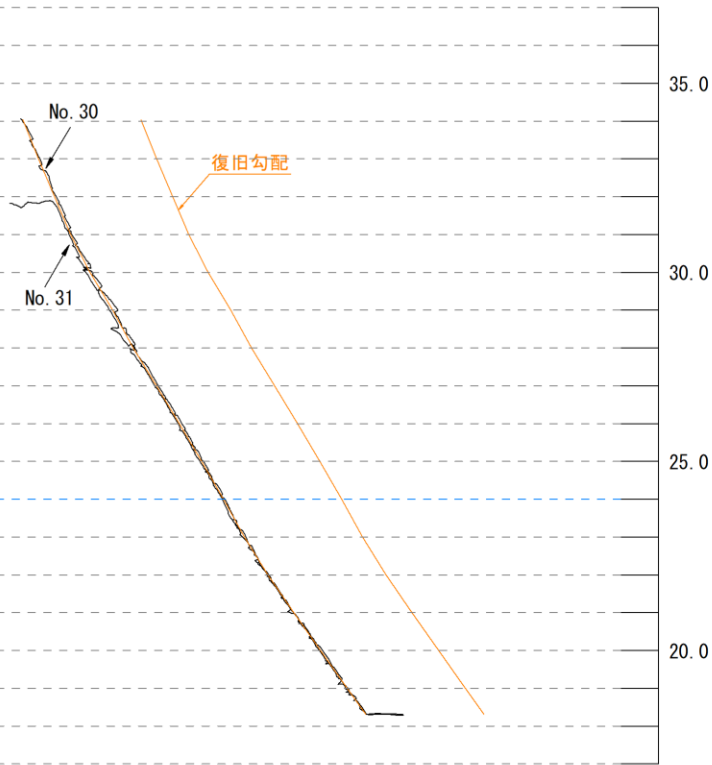
復旧勾配図
(復旧勾配②-1: No. 11, 12, 14)



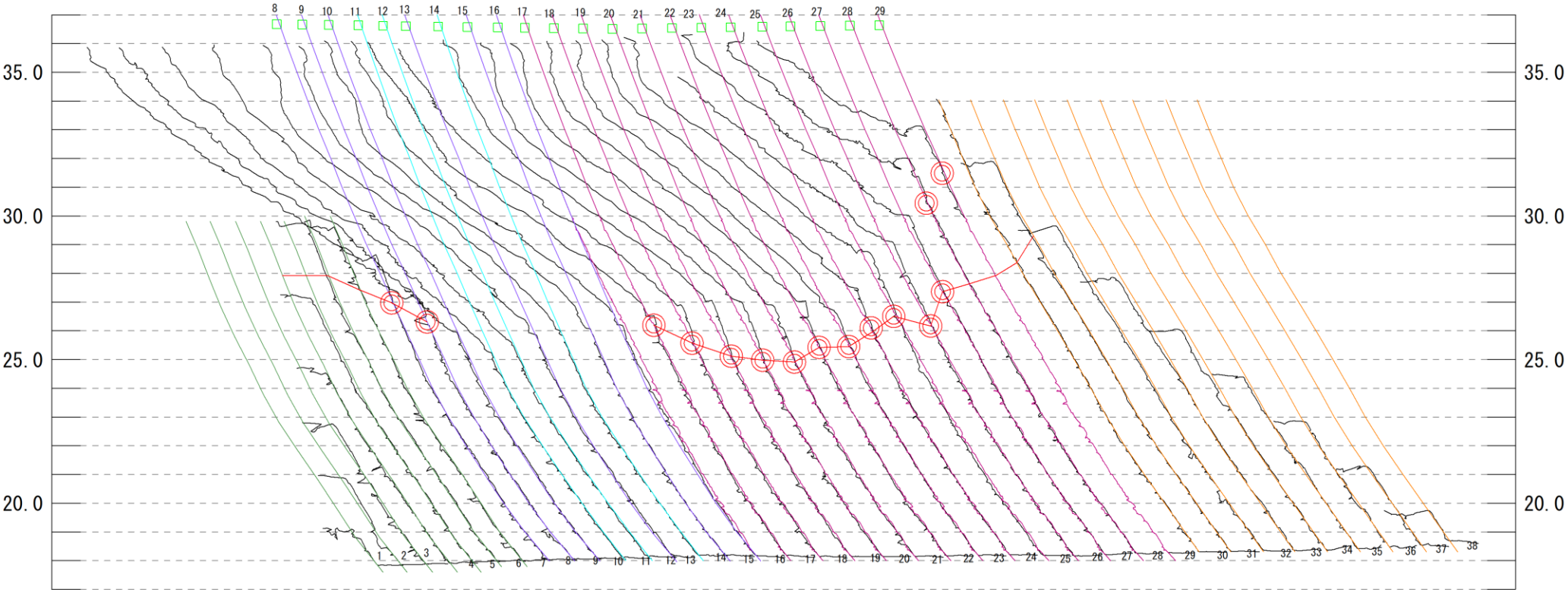
復旧勾配図
(復旧勾配③: No. 16～29)



復旧勾配図
(復旧勾配④: No. 30～38)

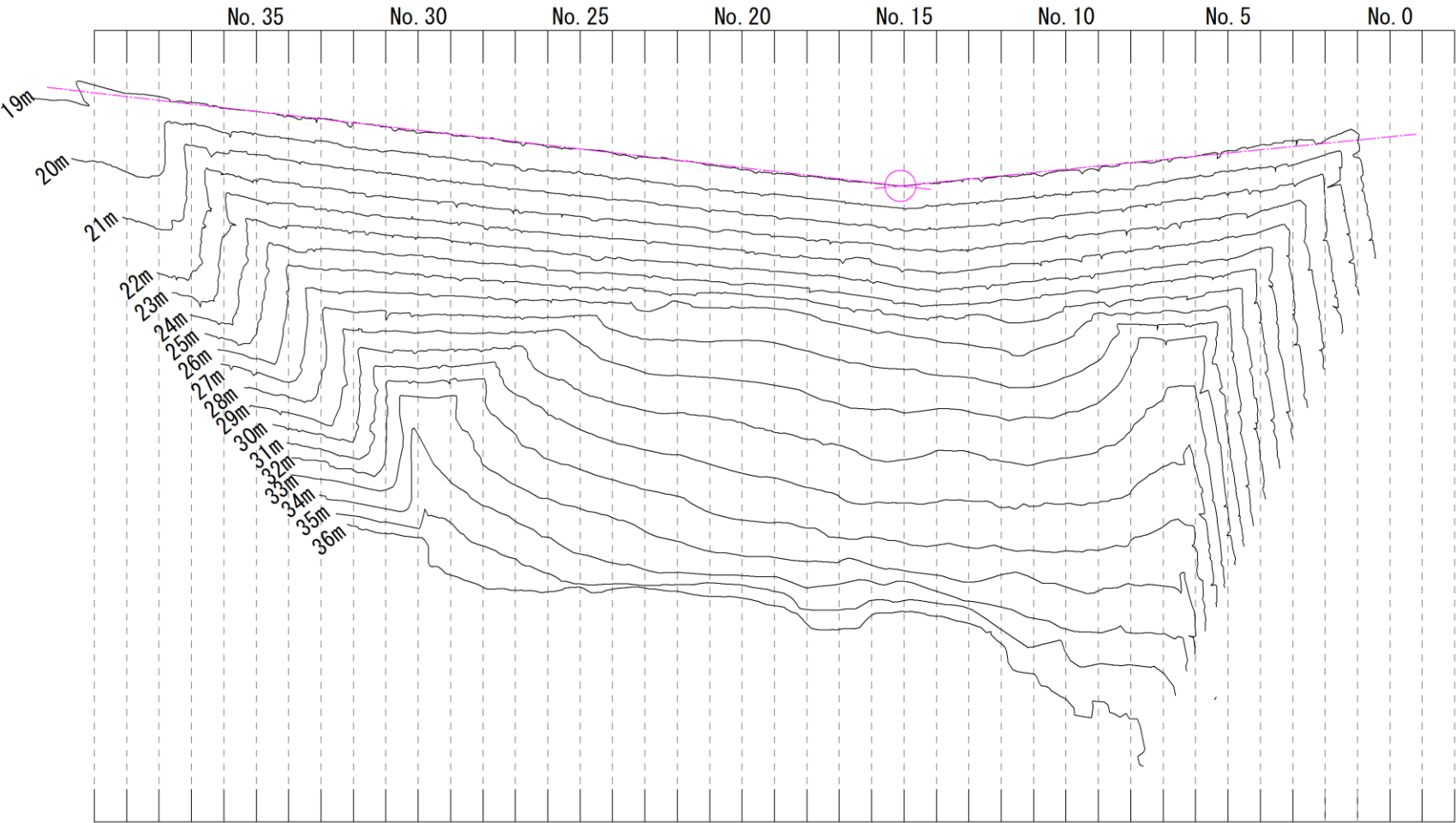


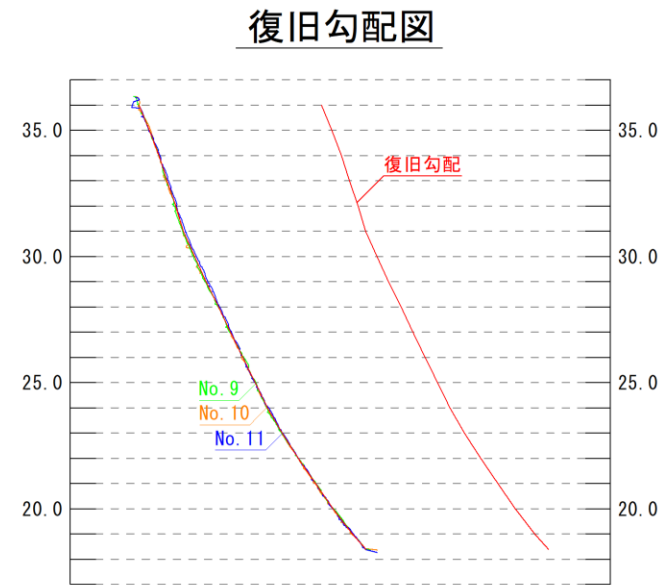
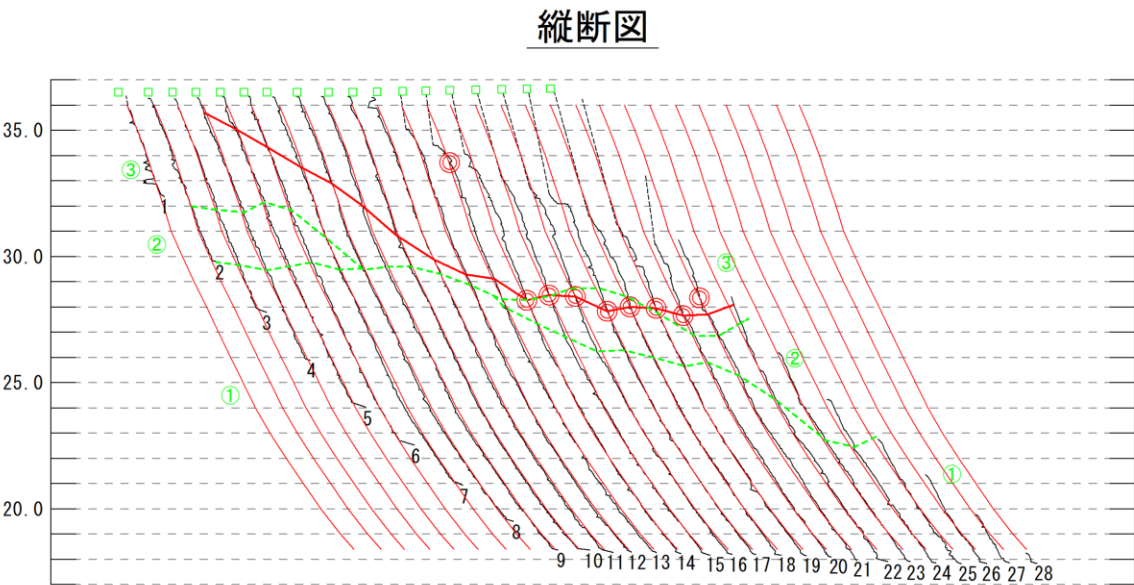
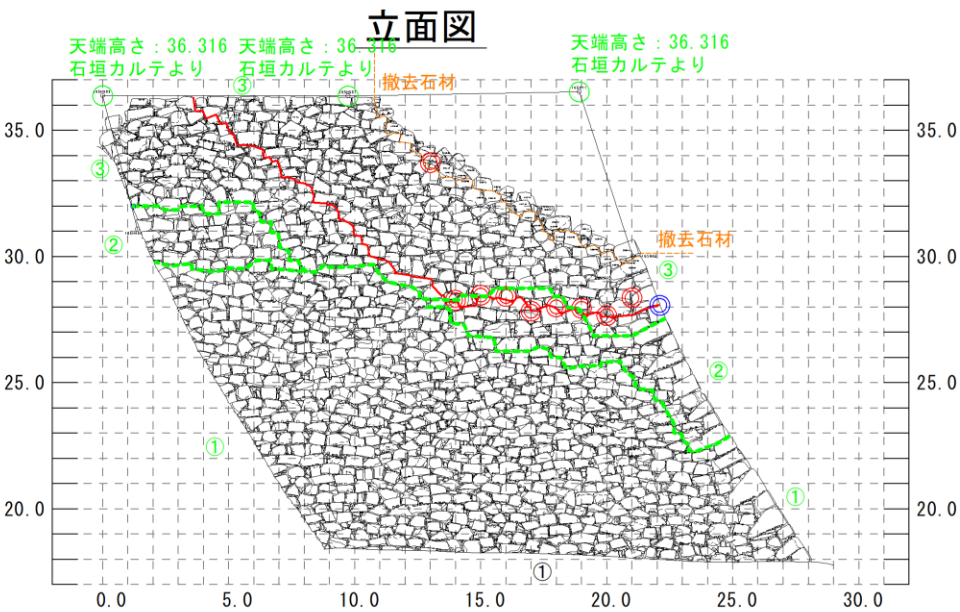
縦断面図（拡大）



※No. 16については復旧勾配②と④のすり付け部であるため両者の中間と言える勾配となっており、大きな変状は無いと考えている。

縦断面図（拡大）





【解体修理範囲の設定手順】

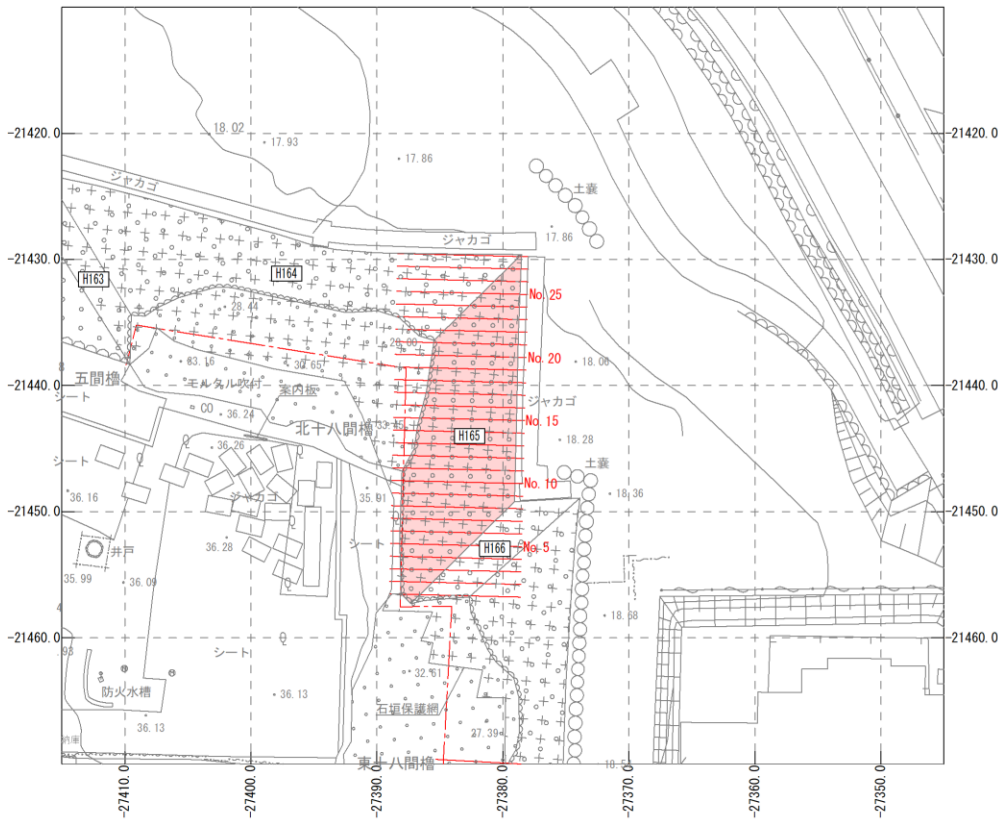
- ①復旧勾配を縦断面図に重ねる。
- ②復旧勾配を元に縦断面図上で変状開始位置を定める。（赤二重丸）
- ③変状開始位置を立面図に投影する。
- ④変状開始位置を基準に立面図上に解体範囲を図示する。
※勾配は安全衛生規則第357条に基づいた安全勾配を満足している。
- ⑤立面図上の解体範囲を縦断面図上に投影する。
※No. 24付近から復旧勾配とずれが生じている。これは勾配が異なる
石垣面（H164急勾配、H165緩勾配）の隅角部は縦断面勾配が変化する
ためである。

- ①熊本城石垣 3 期（1606～1607年頃）【構築当初】
②熊本城石垣 5 期（1625～1632年）【修理 1】
③熊本城石垣 6 期（1632～1871年）【修理 2】
築石部：横目地通りやすい→方形を呈した築石が多いが、一部サイズが不揃い

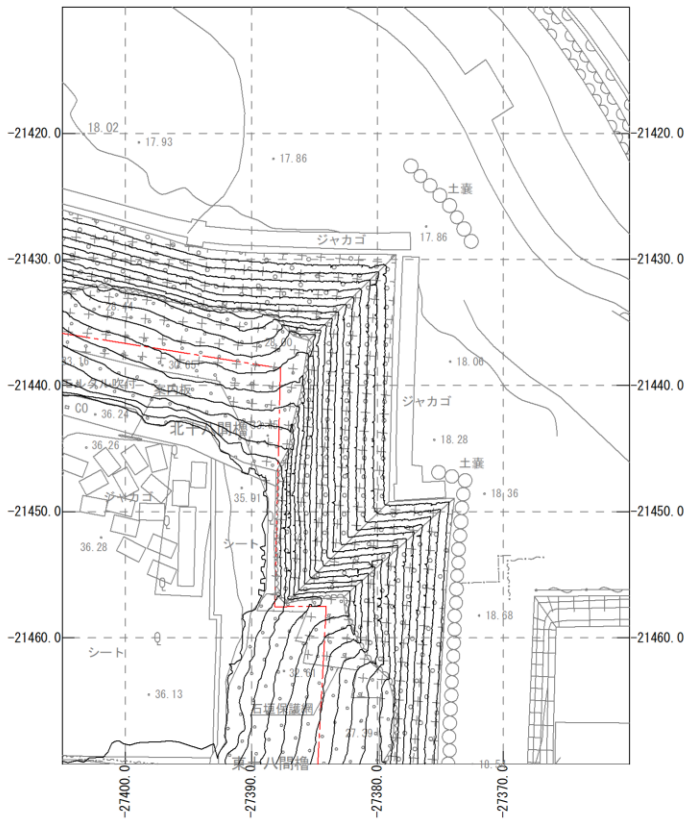
【復旧勾配の設定手順】

- ①石垣高が最大であるNo. 9～11を基準勾配として重ね、
復旧勾配を設定する。
※なお、標高31m付近に勾配の変化点は、熊本城
石垣5期【修理1】と熊本城石垣6期【修理2】
の修理境であると考えられる。

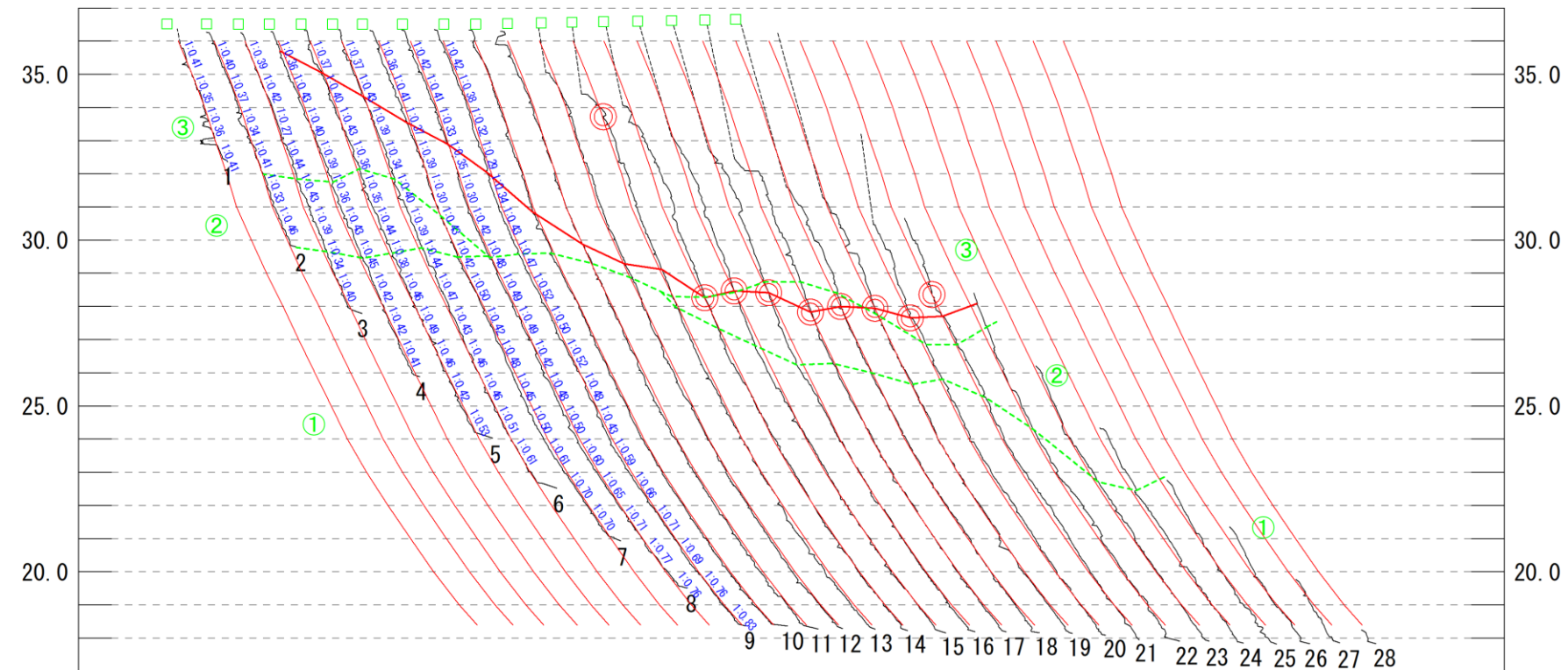
平面図



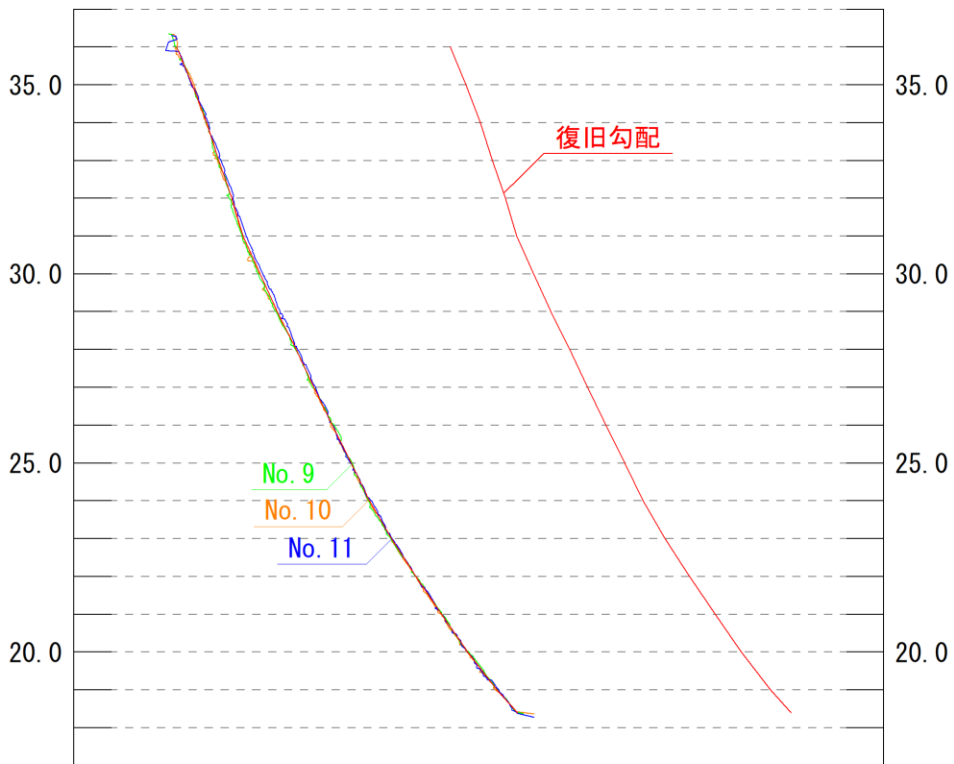
横断面図



縦断図（拡大）



復旧勾配図（拡大）



横断図（拡大）

